

## 論文の要旨

ふりがな 氏名	ズルフィカル ラーマン Zulfikar Rachman
論文題目	インドネシア文化における依頼表現に関する研究 —TolongとMohonを中心に
<p>インドネシア語でも、日本語と同様に相手によって依頼表現の選び方が異なる。しかし、インドネシア語には敬語が存在しない。そのため、教員のような高位者に対して、言葉をできるだけ丁寧にしよう、工夫しなければならない。一方、家族や友人といった親しい間柄には丁寧な表現を使わなくてもよいが、丁寧な表現を使うことが必要な場合もある。インドネシア語における依頼表現の丁寧の度合いについては日本語と同様、命令表現が最も低く、依頼表現を工夫すれば丁寧の度合いを上げることが可能であり、依頼許可表現が最も丁寧となる。</p> <p>インドネシア語の命令表現は能動態の自動詞や他動詞、受動態動詞で構成され、tolong（助ける）、minta tolong（助けを求める）、mohon（願う）といった丁寧さを表す要素を付加することにより依頼表現になる。インドネシア語の依頼表現は kalimat permintaan（要請文）や kalimat permohonan（懇願文）の二つに分類される。Kalimat permintaan は要求表現の程度が大きく緩和される。Tolong（助ける）という丁寧さを表す要素、あるいは minta（求める）、あるいは類似するニュアンスを持つ単語を用いる表現である。Kalimat permohonan（懇願文）は mohon（願う）という丁寧さを表す要素を使って依頼する表現を指す。Kalimat permohonan（懇願文）をさらに丁寧にするために、-lah が使われる場合もある。さらに、boleh（許可を得る）と bisa（可能・できる）といった補助動詞を付け加えることにより、依頼疑問文になり、丁寧の度合いを上げることができる。</p>	

本研究の目的は次の (1) ~ (4) のようになる。(1) から (4) までの目的を達成するために、歴史言語学、語用論、文化人類学、言語地理学、社会言語学、文献学といったさまざまな観点から調査を実施し、分析と考察を行う。本研究は、インドネシア語における依頼表現において中心的な役割を担う補助動詞 *tolong* (助ける) と *mohon* (願う) について、歴史的 (通時的) な変遷の過程と現在の使用実態に縦横からアプローチし、その全体像を解明することを目的としている。

- (1) インドネシア語の依頼表現において中心的な要素である補助動詞 *tolong* (助ける) と *mohon* (願う) の歴史的 (通時的な) 変遷過程を、形式と意味用法の両面から明らかにすること。
- (2) *tolong* (助ける) と *tolong* (助ける) 等、*mohon* (願う) と *pohon* (願う) 等の地域差を明らかにすること。
- (3) インドネシア語の *tolong* (助ける) と *mohon* (願う) について現代の用法を明らかにすること。
- (4) インドネシア語の依頼表現に *tolong* (助ける) と *mohon* (願う) が補助動詞として使用されるようになった文化的背景を明らかにすること。

本研究の方法は、(1) 歴史言語学と語用論の分析においては、古写本等を用いて依頼表現の事例を集め、それぞれの表現の形式と用法を分析する。古写本はマレー語で書かれた物語 (*hikayat*) やジャワ語の年代記 (*babad*) といった文献を取り上げる。マレー語を用いる *hikayat* (物語) とジャワ語を用いる *babad* (年代記) に記されている言語形式と事例を年代ごとに分類し、どのように依頼表現が変遷したのか、どういう場面で使用されてきたのか、1600年代~1800年代の依頼表現がどのように構成されるかを分析する。

(2) かつてジャワ島には強大な帝国があった。他の帝国を侵略した歴史もあり、ジャワ民族がインドネシアの各島に移住したという経緯がある。ジャワ語は他の地方言語にも影響を与えたと考えられる。例えば、スندا語の敬語はジャワ語の敬語の影響を受けたと報告されている。言語地理学の研究方法を用いて、ジャワ語がマレー語の依頼表現にどのような影響を与えたのかを含めて調査することとする。

(3) インドネシア語における依頼表現の現代における使い分けを明らかにするために SNS を活用する。SNS は比較的自然な会話が観察される媒体であるため、本調査における分析対象とした。筆者とインドネシア人や筆者以外のインドネシア人同士の個人的な SNS (WhatsApp、LINE、Messenger、Twitter) のやりとり中出现する依頼表現を中心にデータを集め、分析する。収集したデータは表に整理し、話し手と聞き手の関係に基づき、「下—上」、「対等」、「上—下」、「不特定」といった項目に分類し、依頼表現の使い分けを分析する。なお「—」の左側が話し手、右側が聞き手である。さらに、tolong (助ける) と mohon (願う) の使用実態、類似点、相違点を分析する

(4) インドネシア語の依頼表現は minta tolong (助けを求める) と mohon (願う) という標識で現れる。しかし、どうしてそれらの表現が使用されるのか、その背景については十分に研究されていない。本研究では pantun (四行詩)、tunjuk ajar (教訓)、聖典コーランを調べ、minta tolong (助けを求める) と mohon (願う) がどの場面で現れるか、どのような意味を持っているかについて考察する。Pantun (四行詩) とunjuk ajar (教訓) はマレー族の文化を反映するため、研究対象にした。Mohon (願う) の使用の背景を考察するにあたり過去のインドネシアの社会と文化に関する先行研究を参考にして、分析する。

研究の結果は、(1) ~ (4) の成果が得られた。(1) 1600 年代~1800 年代の古写本を用い、クラシックマレー語における依頼表現を歴史言語学と語用論の観点から分析した。クラシックマレー語における依頼表現には *minta*、*meminta*、*minta'*、*pinta*、*mohonkan*、*bermohon*、*minta tolong*、*tolong* といった形式が存在する。それらの使い分けは 1700 年ごろのジャワ語と類似する。Mohon (願う) は王を中心に用いられるため、上下関係の観点からみると、使用は「下—上」の場面で使用された。Tolong (助ける) あるいは *minta tolong* (助けを求める) の使用は「対等」と「下—上」場面で出現した。また、*minta* (求める) は使用においては「上—下」が一般的だが、稀に「対等」と「下—上」の場面でも見られた。17 世紀~19 世紀は明確な社会階級差があったため、依頼表現を区別していた。王朝時代が終了するのに伴い、「社会階級」が消え、上下関係が曖昧になったため、依頼表現の使用にも変化が生じたと考えられる。

(2) Tolong (助ける) と mohon (願う) を言語地理学の観点から分析した。インドネシアの地方言語における「助ける」に相当する依頼表現は *tolong*、*tulong*、*tulong* という三つの表現が存在する。Tolong (助ける) はマレー語を使用する地域を中心に広がり、貿易によってインドネシアの東側まで普及した。Tulong (助ける) はジャワ語を使用する地域を中心に広がった。また、ジャワ帝国の影響を受けた地域には *tulong* が依頼表現として使用される。Tulong はインドネシアの地方言語以外にも、フィリピンのタガログ語で見られ、依頼表現としての用法も似ている。オーストロネシア族はフィリピンからインドネシアへ移住したという報告があるため、*tulong* (助ける) は最も古い依頼標識だと考えられる。*tolong*、*tulong*、*tulong* 以外の依頼表現も各地方言語に見られる。ただし、インドネシアには 718 の言語が存在するため、全てがマレー語とジャワ語の影響を受けているわけではない。

(3) インドネシア語における *minta tolong* (助けを求める) と *mohon* (願う) の使用の選択は上下関係よりも親疎関係によって決定される。*Minta tolong* (助けを求める) と *mohon* (願う) の選択は場面に定型化している。例えば、一対一の場面では話者と相手が親しくないほど *mohon* を、またはフォーマルな場面ではより丁寧な依頼疑問型と *mohon* を使用する傾向が見られる。*Minta tolong* (助けを求める) と *mohon* (願う) の使用について前者は一対一場面と「上一下」の場面で多用される。一方、後者は改まった表現のため、一対一のやりとりよりも公的場面 (スピーチ、書類等) や集団を相手にする時に多用する。友人同士では *mohon* (願う) を使うと、「冗談」と「非難」として機能する場合もある。

(4) *mohon* (願う) を文化人類学の観点から分析した。*Hikayat* (物語) では *mohon* (願う) / *pohon* (願う) という依頼標識が王や王系の人物に依頼する際に使用された。この使用は *dewaraja* 信仰に影響されたものと見られ、王 (*raja*) は神 (*dewa*) の降臨であるため、王は神と同等だと思われていたためだと考えられる。神である王に何かしてもらおう際の依頼表現は *mohon* / *pohon* (願う) のどちらかを選択する傾向がある。これは英語の *I pray* (私は願う) と類似し、世俗的な意味合いで日常的に用いられていた。*Minta tolong* (助けを求める) あるいは *tolong* (助ける) を依頼表現として使用することは *tolong-menolong* (助け合う) 文化が存在していることが背景にあるためと推測できる。「助け合う」という言葉はマレー族の *pantun adat* (風習の四行詩) に多用された。イスラム教の教えとも関連し、イスラム教徒はお互い兄弟のため、助け合わなければならないとされる。そのような文化的背景から、*minta tolong* (助けを求める) と *tolong* (助ける) を使うことによって相手に依頼するという表現が生じたと考えられる。

備考 要旨は、日本語 4,000 字以内又は英語 1,500 ワード以内とする。